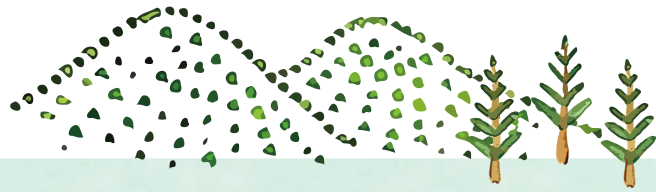


童話の森にご縁があったメンバーが集まり、楽しみながら森の整備活動や森を学ぶ活動を行っています。



プロジェクトチームの活動として行っている自然観察会。四季の移り変わりを実際に観察して実感しながら、この森をより深く知るための情報共有をしています。童話の森には南吉作品に登場する植物もたくさんあり、各分野の専門家を迎えてさまざまな角度から森について学んでいます。



自然観察路の入り口にある「樞狐」草稿碑と、その脇に生えているヒサカキ。

「童話の森」とは
「童話の森」は、新美南吉記念館に隣接する一周10分ほどで散策できる小さな森で、新美南吉の代表作『こんぎつね』の舞台とされている場所です。『こんぎつね』は小学4年生の全ての国語教科書に掲載されており、これまで通算700万人以上に読まれてきた作品。『こんぎつね』の冒頭に「中山」というところには小さなお城があって、中山さまというおとこのさまがおられたそうです。『こあり』、その中山さまというのが戦国時代に岩滑の村を治めていた人で、城が今の童話の森にあったと言われています。



発行 / (特非)ごんのふるさとネットワーク

「童話の森活動レポート2023」はあいち森と緑づくり税を活用して発行しています

童話の森の主な活動

▶ 1 森を知り、未来を描く

- ・自然観察会
- ・各種ワークショップ
- ・専門家を招いた勉強会

▶ 2 森を整える

- ・清掃と間伐
- ・新たな植栽

▶ 3 森で楽しむ

- ・童話の森だよりの発行
- ・童話の森の文化祭
- ・間伐材の活用

童話の森は、童話作家・新美南吉を顕彰する新美南吉記念館に併設された小さな森です。南吉の生まれ育った愛知県半田市岩滑にあり、南吉の生家も歩いてすぐのところにあります。南吉の生きた大正から戦前、この森は岩滑の住民にとって身近で大切な里山でした。南吉さんの作品にはこの森や岩滑地域に生息する植物や生き物、風景が多く登場します。それは、南吉が自分の生まれ育ったふるさとを舞台にお話をかいたから、そこに生きる人々の生活を描いた作家だからです。

この森は人と身近な関係性にあつた里山としての時期から、高度成長期を経てだんだんと人が寄りつかない森へと変わっていきます。その後、南吉の代表作である『こんぎつね』の舞台でもあるこの森を生かし、新美南吉記念館が建てられ、散策路として整備、ただ年々植生が変化し、「ヒサカキ」や「カクレミノ」など陰樹中心の薄暗い数になり、人が入りづらい暗い森になっていました。

そんな中、2020年秋、「童話の森」プロジェクトの活動が始まりました。まずは関心のある有志数名で、この森を数十年にわたり見てこられた地元活動家とともに自然観察会を実施。まだまだ南吉作品に登場する植物や生き物が残り、この森から新美南吉の作品世界へとつながる可能性を大きく感じました。

童話の森プロジェクトほか
矢勝川周辺情報を発信中!
ローカルメディア「はんの木」
<https://hannoki.org/>



南吉童話の世界へつながる森を
より多くの人が訪れ楽しめる場所へ。

森を知り、未来を描く

森と仲良くなる 自然観察会を開催

童話の森には新美南吉の作品にも登場する植物が数多く生えています。森林インストラクター伊藤佑三氏のガイドのもと、自然観察会を実施しました。森と仲良くなるために樹木や草花の名前を覚えながら散策しました。



楽しく解説してくれる伊藤さんの自然観察会。樹木や草花の名前や特性を知ると、森の景色が変わってきます。



童話の森でプロジェクト

アートが森を彩る

「童話の森の文化祭」開催



整備を続けてきて少しずつ明るく人が入りやすくなってきた森に、もっとたくさんの方に来てもらいたい、ということでも「物語が生まれる森。童話の森で会いましょう」をコンセプトにはじまった「童話の森の文化祭」。今年も秋に第2回を開催しました。新美南吉にインスピレーションを受けた作家による「童話の森のミュージアム」をはじめ、さまざまなプログラムでたくさんの方に童話の森を楽しんでいただきました。

森で楽しむ



森を整える その1 整備活動で、人が集う 明るい森を目指して

月に一度、森の清掃、間伐作業、植栽活動を行なっています。最初は数名で始まった活動が今では30名を超える仲間と一緒に活動しています。メンバーは子どもから80代のベテランまでさまざま。新美南吉の作品に出てくるような多様性のある森へ、多様性のあるメンバーで活動しています。森の隣には小さな花壇も。作品にちなんで綿(わた)やサクラソウ、菜の花など、季節の植物を育てています。

森を整える



現在の森の植生を見ていただき、成長後を想定した美しい姿を保つ剪定のコツを教えてくださいました。



森を整える その2 庭師の技術的観点から 植物の剪定を学ぶ

愛知県各所で活動する庭師のワタナベジュンさんをお招きし、森の美しさの観点から剪定や伐採などのポイントを教えてくださいました。



「童話の森の上映会」にて、ストップモーション・アニメーション「ごん GON, THE LITTLE FOX」を上映しました。

音楽作家宮内優里氏によるBGM LIVEを開催。新美南吉記念館内のミュージアムショップでオリジナルの童話の森の楽曲も常時楽しめます。



セットの準備からすべて手作りの「体験型こどもミュージカル」を開催。かわいいこぎつねたちが森を駆け回りました。



童話の森の文化祭レポートはこちら



ミュージアムでは、作品展示に建築士市川大輔さん提唱の「森の円」を導入。たくさんのサークルを作りました。

森の散策路内に作品を展示した「童話の森のミュージアム」。いつもとは違うアートな森に大変身。



間伐材の活用

森の間伐木材で楽しむ 木エワークショップ

森で間伐した木材を有効利用するため、木工作家のicura工房 筒井則氏をゲストにさまざまなワークショップを実施。「童話の森の住人たちを作ろう」では、森で間伐したヒサカキなどの小枝に電熱ペンで顔を描き、頭に帽子を被せて完成させます。昨年に引き続きたくさんの方に参加いただき、個性溢れる森の住人たちが増えました。「バターナイフをつくらう」では、森で伐採した生木の枝から、小刀で削って制作。間伐木材から生まれる新しい価値を楽しみながら、模索し、今の時代に見合った「森の循環」を進めています。



伐採した生木は水分がなくて削りやすく、木くずもしっとりした感触。小刀で削ると、新鮮な木の香りがします。

